

会員各位

(公社)麻赤歯発 第号  
令和6年6月26日  
(公社)東京都港区麻布赤坂歯科医師会 会長 綱島 俊幸

## 令和6年度第2回麻布赤坂歯科医師会学術講演会

### 『痛みとは何か？最新脳科学によって切り拓かれた新しい痛み観』

日頃より会務運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

根管治療や顎関節治療だけにとどまらず、原因不明の痛みがなかなか取れない患者さんは誰もが経験していると思います。非歯原性歯痛や線維筋痛症、あるいは多くの慢性痛、異所性疼痛、広汎性疼痛など、患者さんの「原因と一致しない痛みの訴え」に対しどの様に対応すべきか悩むことも多いのではないのでしょうか。

今回は痛みのパイオニアをお迎えして、痛みを傷害や炎症の結果ではなく、自己の生存のリスクを表象して生存可能性を向上させるために脳が生み出す内発性のシグナルととらえなおす、新しい「痛み観」についてご講演いただきます。

日時：令和6年9月5日(木) 19:00～20:30

場所：国際医療福祉大学 赤坂キャンパス 501教室

**\*大学授業終了時刻の都合で不定時に正面入り口が閉まります 閉まっている場合は「向かって右横の通路」を奥まで進み、「通路壁面のインターホン」で防災センター職員に連絡して職員通用口からお入りください\*  
(裏面の地図をご参照ください)**

講師： 東京慈恵会医科大学・名誉教授（痛み脳科学センター）

加藤総夫 （かとうふさお） 先生

会費： 港区麻布赤坂歯科医師会・芝歯科医師会会員 無料

会員スタッフ 500円・他区会員又は非会員 1,000円



## 加藤総夫先生

- 1984 東京大学大学院薬学系研究科修了  
東京慈恵会医科大学第2薬理助手
- 1993-95 仏国立科学研究センターアルフレッドフサル  
神経生物学研究所訪問研究員
- 1995-1996, 1998 仏ストラスブール大学生理学生物化学  
研究所外国人教授
- 1997 東京慈恵会医科大学薬理学講座講師
- 2001 英シェフィールド大学分子生理学研究所招聘研究員
- 2001 東京慈恵会医科大学・総合医科学研究センター  
神経生理学研究室・室長・助教授
- 2005 同教授。
- 2014 同先端医学推進拠点痛み脳科学センターセンター長
- 2024 同名誉教授

日本学術会議連携会員 日本疼痛学会名誉会員 日本いたみ財団理事 日本自律神経学会理事

痛みとは何か？ 人は記憶にも残らない幼い頃からの体験を通じて「痛みとは何か」を学び、それが何らかの傷害や炎症などの結果として生まれる、という因果関係を習得する。ところが、国際疼痛学会は痛みを「実際の組織損傷、もしくは組織損傷が起こりうる状態に付随する、あるいはそれに似た、感覚かつ情動の不快感体験」と定義している（2020年）。この定義は、実際の組織損傷があってもなくても、それに似たような不快感体験があったらそれは痛みであると述べている。

非菌原性歯痛や非特異的腰痛や線維筋痛症、あるいは多くの慢性痛、異所性疼痛、広汎性疼痛などの「原因と一致しない痛みの訴え」は珍しいことではない。2017年、国際疼痛学会は、「侵害受容や神経障害なしに、脳の可塑性を原因として生じる痛み—nociplastic pain」を定義した。演者は日本痛み関連学会連合用語委員長として「痛覚変調性疼痛」という公式日本語訳を与え2021年に公表した。一方、ヒト脳機能イメージングは、慢性痛が脳の広範な部位の変化を伴い、その大部分が、「情動」に関わる部位であることを、また、非臨床研究は、侵害受容情報の最も主要な脳内標的が、視床や大脳皮質ではなく、脳幹の腕傍核や情動に深く関与する扁桃体であることを明らかにしてきた。痛みを、傷害や炎症の結果ではなく、自己の生存のリスクを表象して生存可能性を向上させるために脳が生み出す内発性のシグナルととらえなおす、新しい「痛み観」を提唱したい。

